



5月17日、石川県小松市で「第66回全国植樹祭 いしかわ2015」が行われました。全国植樹祭は、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する理解を深めるため、昭和25年から各都道府県を巡って毎年春季に開催されている国土緑化運動の中心行事です。

石川県では昭和58年に<sup>かほくぐんつばたまち</sup>河北郡津幡町の石川県森林公園で開催された第34回大会以来、32年ぶり2回目の開催となりました。



林 農林水産大臣へ緑の少年団から苗木の贈呈



大会テーマ表現



プロローグアトラクション



皇后陛下によるお手播き



天皇陛下によるお手植え



佐々木 理事長による大会宣言

## テーマは「木を活かし 未来へ届ける ふるさとの森」

今大会の主会場となった小松市三谷町の式典会場では、およそ1万人の参加者が集いました。今年は北陸新幹線の金沢開業直後の植樹祭開催となり、シンボルマークに北陸新幹線開業PRマスコットキャラクターがあしらわれました。

「木を活かし 未来へ届ける ふるさとの森」を大会テーマに、「森林資源を積極的に活用していく」ことを基本理念とし、国民共有の財産である森林の役割を再認識し、健全な森林を次世代に継承していくため、森林の保全整備と、それを支える森林資源の活用拡大の重要性の認識を深めることなど、石川県の緑化運動の取組を発信する契機として開催されました。

## 「緑の循環」を次代につなぐ

式典前のプロローグでは、先人たちの木と共に生きる心、木を活かす技が連綿と受け継がれている様子を表現したアトラクションが上演されました。

天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、開会のことば、三旗掲揚で幕を開けた記念式典では、国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール、緑化功労者、全日本学校関係緑化コンクールなどの表彰、林芳正農林水産大臣などへの県内の緑の少年団が育てた苗木の贈呈が行われました。

両陛下によるお手植えでは、天皇陛下はクロマツ、ケヤキ、スギの苗木を、皇后陛下はアカマツ、ケンロクエシキクザクラ、ヤマモミジの苗木をそれぞれ植樹されました。また、お手播きでは、天皇陛下はアテ(ヒノキアスナロ)とクヌギ、皇后陛下はヤマザクラとトチノキの種子を播かれました。いずれも石川県内に自生し、文化・生活と関わりの深い樹種で、両陛下は介添え役を務めた緑の少年団の子ども達にお声をかけながら、お手植え、お手播きされました。

続いて、石川県の豊かな里山里海を構成する「森・川・海・里」のつながりと「森林資源の利活用」を通じた、豊かな森づくりの意義をアピールし、大会テーマを伝える表現が演じられました。



植樹祭のシンボルである木製の地球儀が  
谷本正憲 石川県知事(左)から阿部守一 長野県知事(右)へ

主会場の他にも小松市若杉町で行われた植樹などで参加者に緑化の重要性を訴えた大会は、国土緑化推進機構の佐々木毅理事長による大会宣言と、谷本正憲石川県知事から来年全国植樹祭が開催される長野県の阿部守一知事に全国植樹祭のシンボルである「木製の地球儀」を手渡すリレーセレモニーで幕を閉じました。

今回の第67回全国植樹祭は、来春、長野県長野市を主会場に開催される予定です。